

平成27年度事務事業評価シート		該当事業(評価対象外事業は基本情報のみ記載)		
		一般事務	公共建設事業	評価対象外事業
事務事業名	簡易水道運営事業			
予算科目	4 款 3 項 1 目			
総合計画での位置付け	都市基盤の整備 水資源の確保			
所管課情報	担当課:	水道課	電話番号(内線):	713
記入者情報	所属長:	野島 康博	担当責任者:	水野 知
事業の性格	内部管理事務			
実施期間	【開始年度】平成 18 年度 【開始年度】設定なし			
事業の対象	簡易水道事業特別会計			
根拠法令等	水道法			
事業の目的	簡易水道事業特別会計へ繰出金。			
事業の内容	簡易水道事業会計の歳入、歳出に不足額に合わせて繰出金を支払う。			
改善策の 具体的 取り組み (当初)	不具合を生じている施設・機械を発見し早期に修繕をし、支出を減らす努力をする。			
改善策の 具体的 取り組み	特になし。			

事業費及び財源内訳					
項 目		26年度決算	27年度予算	9月末の執行状況	27年度決算
事業費	直接事業費	102,417	100,710	0	90,853
	人件費	1,591	1,608	0	1,608
	合計	0	102,318	0	92,461
人件費 内訳	人工数	0.20	0.20	0.00	0.20
	人件費単価	7,954	8,042	0	8,042
	補助事業人件費	0	0	0	0
	人件費	1,590	1,608	0	1,608
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	104,008	102,318	0	92,461

事業活動の実績(活動指標)					
項目	単位	26年度実績	27年度予定	9月末の実績	27年度実績
簡易水道特別会計繰出金	千円	102417	100710	0	90853
簡易水道特別会計歳入総額	千円	833999	52174	0	489696

向こう5年間の直接事業費の推移						
年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	5年間の実績
	100,000	60,000	60,000	60,000	60,000	340,000

成果指標				
成果指標	簡易水道事業繰出金÷簡易水道特別会計歳入合計			
指標設定の考え方	簡易水道特別会計事業費における独立採算の割合を数値化することにより費用対効果常に意識する事務の遂行が可能となる。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標29年度
目標	0.5	0.25	0.25	0.25
実績	0.12	0.19	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	簡易水道施設は、中山間地域に点在しており、また、小規模で老朽化した施設が大半であるため、非常に経営効率が悪く、水道使用量のみでは運営できていないのが現状である。今後においても、一般会計からの繰入の依存度は高くなっていくと思われることから、定期的な設備更新計画を策定し、実施すること、不具合を生じている施設・機械があれば、速やかに修繕をしロスを減らすことが必要であると考えている。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	中山・双海地域の簡易水道施設は、各所に点在し、経年劣化による老朽度の高い施設も存在しており、維持管理に係る経費も年々増加傾向にある。一方で水道料金収入のみでは、経営は賸えておらず、一般会計からの繰入に依存している状態が将来も続くものと考えている。したがって、事業事務の効率化や更なる経費削減に努めるとともに、水道料金の見直しや上水道への経営統合も視野にいれて検討し、一般会計からの繰入を少しでも減らせる財政計画を見直す必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	
-------------------	--

経営者会議の最終判断

事業の方向性	現状のまま継続する。
意見、課題	